

# 渋川市こども発達相談室ニュース 2021年2月号

～今年はドカ雪が降るのか降らないのか、どっちなのか?どうか降らないで、...～



## 発達障害とは?第4弾 「限局性学習症(SLD)・学習障害(LD)」について

SLDもLDも今は同じ意味で使われている言葉です。知的な発達に遅れはないのに、「読む」「書く」「計算する」といった特定のことがうまくできない場合があります。これは、限局性学習症と呼ばれる発達障害です。文字の読み書きや数字の理解に関わる脳の働きが十分に発達していないことによるものです。

例えば、読みの困難には「形の似た字を間違える」「どこで区切って読めばいいかわからない」などがあります。書きの困難には「文字を左右逆さに書いてしまう」「漢字を部分的に間違える」などがあります。計算の困難には「数字の概念が理解できない」「簡単な計算ができない」「3番目と3つの違いが理解できない」などがあります。こうした困難があると、勉強がスムーズにできず、周りから「勉強する気がない」「努力していない」などと誤解を受けてしまい、子どもにとって大きなストレスとなります。限局性学習症があると、学校生活だけでなく、就職してからも困難な状況が続きます。

文字を学び始める小学校1年生までは、発達の遅れはあまり目立ちませんが、学年が進むごとに「読み書き」が他の子どもより苦手なことが明らかになっていきます。まずは学校の先生とよくお話をされることをおすすめします。限局性学習症がある場合は、家庭や学校での適切なサポートが必要になります。話をしているときには理解しているのに、読み、書き、計算といった特定のことができない場合には、医療機関や保健センター、当相談室へ是非ご相談ください。

サポートは、その子の抱えている困難に応じて対応します。「自分が読んでいるものを理解することが困難」という場合には、「子どもが音読したあとに、続けて教師や親がゆっくり正確に声に出して読む」「文の少ない絵本を交代で音読する」などがあります。「文字を逆さに書いてしまう」場合には、「なぞり書きを何度も繰り返す」「間違えても叱らず、正しい文字を見せる」などが有効です。

限局性学習症の理解はまだ十分に進んでいません。生まれつきの個性のようなものだと理解して、社会全体で支えていくことが求められます。

【デジタル教科書】  
検索してサンプルの動画を是非ご覧ください。



<https://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext.html>

### スタッフ紹介

細野 陽子

言語聴覚士

趣味：ドライブ、バドミントン  
特技：車の運転、手話  
好きなこと：子どもと遊ぶこと



## <お知らせ>

3月土曜日の相談受付日に変更になります。  
通常、第3土曜日の3/20ですが、  
春分の日のため3/27に変更となります。  
お間違いのないよう宜しくお願い致します。

渋川市こども発達相談室  
スタッフ一同